

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	中国語の感覚形容詞に関する認知言語学的研究：日本語との比較を通して
Author(s)	張, 曉琳
Citation	広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 総合科学研究, 2 : 39 - 44
Issue Date	2021-12-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00052021
Right	掲載された論文, 研究ノート, 要旨などの著作権・著作権は広島大学大学院人間社会科学研究科に帰属する。©2021 Graduate School of Humanities and Social Sciences, Hiroshima University. All rights reserved.
Relation	



中国語の感覚形容詞に関する認知言語学的研究

—日本語との比較を通して—

張 曉琳

広島大学大学院総合科学研究科

A Cognitive Linguistic Study of Mandarin Chinese Sensory Adjectives: In comparison to Japanese

ZHANG XIAOLIN

Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Hiroshima University

1. 感覚形容詞のカテゴリー—階層構造 と時間把握

中国語の感覚形容詞においては、複音節形容詞は(1a)のようにメタファー表現として用いられるが、単音節形容詞の場合は(1b)に示すように、慣

- (1) a. 他 的 外表 看起来 冷冰冰 的。
3SG GEN exterior look as cold-ice-ice AUX
b. * 他 的 外表 看起来 冷。
3SG GEN exterior look as cold
c. 彼は外見が冷たい。

感覚形容詞が喚起する概念内容に把握時間 t が含まれるかどうかという観点から、そのような使用制約が生じる認知的要因について考察を行う。まず、図 1 に示すように、中国語の単音節形容

用表現などの例外を除き、基本的にメタファー表現として容認されない。これは、先行研究では、音節的な制約であるとされており、単音節形容詞をメタファー的に使用する場合には単音節語と組み合わせる必要があるとされている。しかしながら、これに関しては多くの反例が存在する。

詞（“冷”など）は、意味的には、基本レベルカテゴリー形容詞であるのに対し、複音節形容詞（“冷冷”“冷冰冰”“冰冷”“冷酷”“很冷”など）はその下位レベルカテゴリーであると提案する。

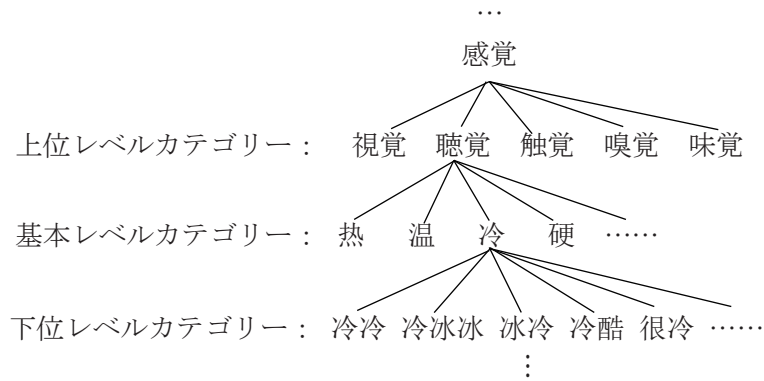


図 1 中国語の五感のカテゴリー階層構造

また、単音節形容詞（例えば，“冷”）では把握時間 t が全く喚起されないのに対し（図 2），複音節形容詞（例えば，“冰冷”）では把握時間 t がベースとして喚起されると主張する（図 3）。そし

て，創造的なメタファー表現においては把握時間 t を伴った事態を喚起する必要があり，そのため，把握時間 t が喚起されない単音節形容詞はメタファーとして用いることができないと提案する。

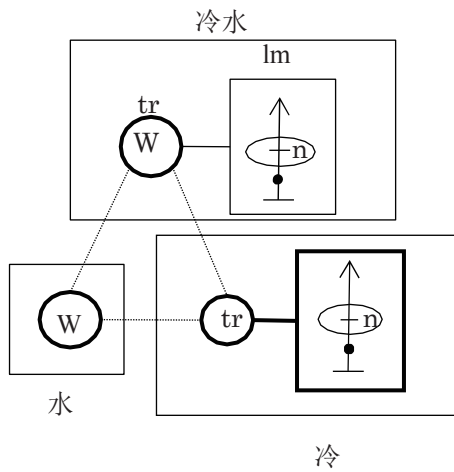


図 2 “冷水 (冷たい水)”

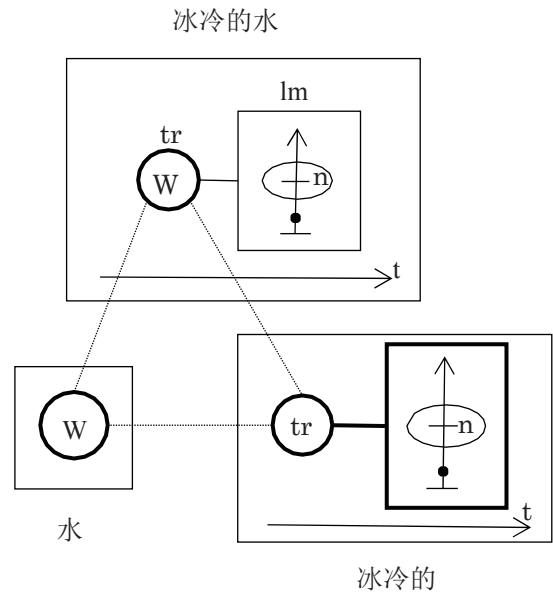


図 3 “冰冷的水 (氷のように冷たい水)”

中国語の場合は，日常の具体的な経験から基本レベル形容詞のスキーマが抽出される際に把握時間 t が完全に捨象されてしまったのに対し，日本語の場合は，抽出されたスキーマにおいて，把握時間 t が捨象されたスキーマと把握時間 t が捨象

されていないスキーマが共存している可能性がある。図 4 と図 5 は日本語の「冷たい」を一例として把握時間 t の有無を図式化したものである。つまり，(1c)「彼は外見が冷たい。」が容認されるのは，図 5 の「冷たい 2」が用いられると考える。

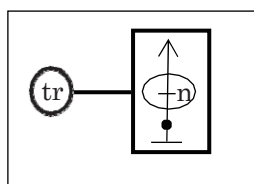


図4 基本レベル「冷たい¹」

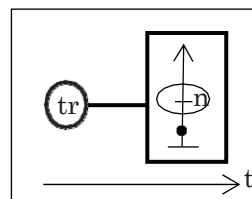


図5 下位レベル「冷たい²」

2. 感覚範疇における擬態形容詞

(2a)(2b)から分かるように、中国語の感覚擬態表現は必ず形容詞を伴わなくてはならない。(2c)が容認されるため、これは日本語の擬態語にはない制約である。そのような差異が生じるのは、日本

- (2) a. 刚蒸好 的 *乎乎 / *腾腾 的 馒头。
just steam done AUX OTP(huhu) /OTP(tonton) AUX steamed bread
- b. 刚蒸好 的 热乎乎 /热腾腾 的 馒头。
just steam done AUX hot-OTP(huhu) /hot-OTP(tonton) AUX steamed bread
- c. ふかしたてでほかほかのまんじゅう。

図6はABB型形容詞の合成構造である。左下の太線ボックスはプロファイル決定子である単音節形容詞(A型)を表し、DAはこの形容詞の認知ドメインを表している。この単音節形容詞(A型)と音象徴表現BBが合成されたものが上のボックスに示されている。合成された結果であるABB型形容詞では、認知ドメインDAが指定さ

語の擬態語では音によって直接に身体的なイメージが喚起されるのに対し、中国語の擬態表現では認知ドメインが未指定のままであり、具体的な概念内容を表すためには、形容詞による認知ドメインの指定が不可欠であると考えられる。

れると同時に把握時間tがベースとして喚起されている。品詞横断的な現象から見れば、中国語においては、感覚形容詞ABB型だけでなく、擬声語、感情形容詞、動詞のABB型も同じように、Aというプロファイル決定子により、認知ドメインが指定され、合成構造になっている。

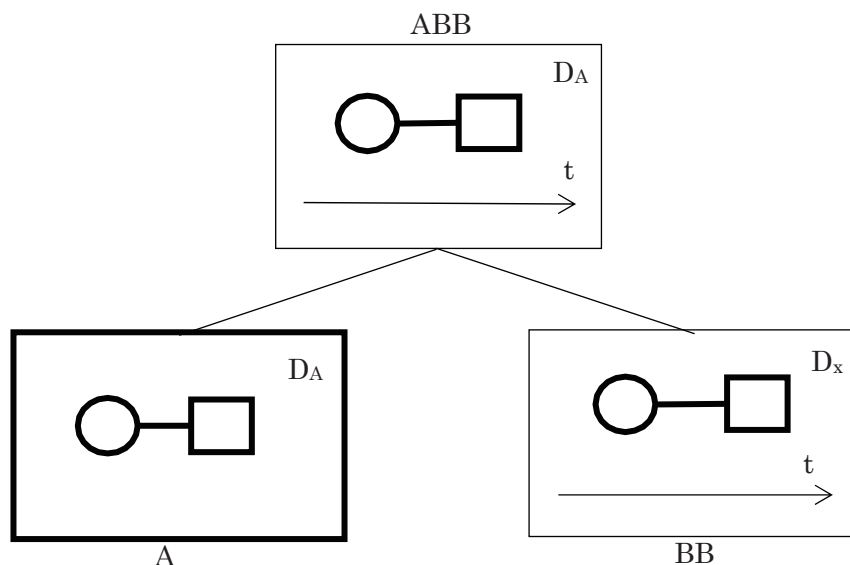


図6 ABB型

このような理由で合成された形容詞と擬態表現の合成構造をここでは擬態形容詞と名付け、中国語の感覚形容詞を、表 1 のように属性形容詞、状態形容詞、擬態形容詞の 3 つに分類することを提案する。その上で、属性形容詞は時間的安定性

スケール上で最も安定性を持った形容詞であるために名詞に近いのに対し、状態形容詞ではやや安定性が下がり、認知主体の身体的経験を再現することによる動的な認知プロセスが含まれる擬態形容詞は最も動詞に近いと主張する。

形式	機能	音声	カテゴリー階層
単純	属性形容詞	単音節形容詞 A 型	基本レベル形容詞
複雑	状態形容詞	AB 型 “冷酷 (冷酷だ)” “热闹 (賑やかだ)” “很硬 (とても硬い)” など	下位レベル形容詞
	擬態形容詞	AA 型 “静静 (静か)” ABB 型 “甜蜜蜜 (甘い)” BA 型 “冰冷 (氷のように冷たい)” BABA 型 “冰冷冰冷 (氷のように冷たい)” AABB 型 “热热闹闹 (にぎやか)” ABAB 型 “热热闹闹 (にぎやか)” など	

表 1 中国語における感覚形容詞の再分類

3. 形容詞一語文の間主観性

日本語には、(3a)のように話し手が思わず感覚を表出する際に、形容詞語幹構文を用いることが

ある。それに対し、中国語においては、感動詞を除き、形容詞が(3b)(3c)(3d)のように日本語と同じ条件で単独で一語文になることはない。

(3) (暖かい部屋から屋外に出て)

- a. さむっ。 (富樫 2006:165)
- b. * 冷。
cold
(寒い。)
- c. # 冷冷 的。
cold-cold AUX
(肌寒い。)
- d. # 冷飕飕 的。
cold-OTP (soso) AUX
(風がピューピューと寒い。)

本研究では、町田(2020)の間主観性に関する分析を援用し、両者の捉え方の差異について明らかにする。同化型と対峙型の間主観性の分類を踏ま

えて、(4)から(6)に示すような日本語と中国語の形容詞一語文の事態把握からみる差異を表すとそれぞれ図 7 のようになる。

- (4) (暖かい部屋から屋外に出て)
- a. さむっ。(=3a)
- b. 啊！
oh
(あっ！)
- (5) (寒い屋外を歩いている最中に)
- a. 寒い。
- b. 冷冷 的。
cold-cold AUX
(肌寒い。)
- c. 冷飕飕 的。
cold-OTP (soso) AUX
(風がピューピューと寒い。)
- (6) (クーラーの設定温度を下げたのを見て)
- a. 寒い(よ)！ (平岩 2019:5)
- b. 冷！
cold
(寒いよ！)

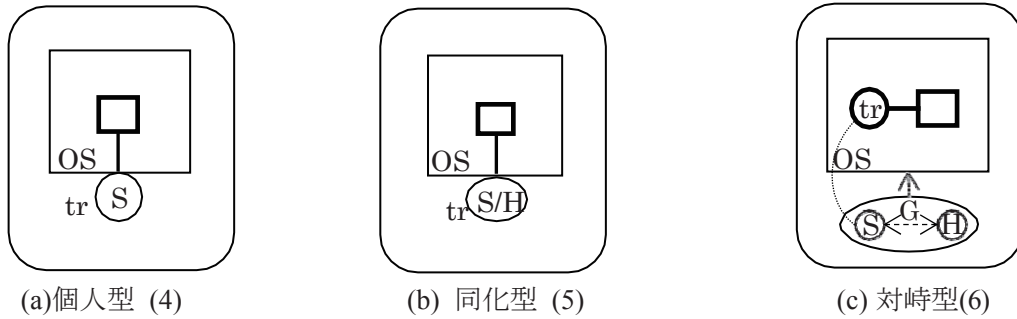


図7 感覚形容詞一語文の類型

日本語の形容詞語幹構文「さむっ。」と中国語の感動詞“啊！”は、図7(a)に示すように、突然の状況下では、話し手が聞き手の存在を意識する時間がないため、独り言の個人型である。日本語の形容詞一語文「寒い」は対峙型と同化型の両方を表すことができるが、中国語の複音節の擬態形容詞“冷冷的”と“冷飕飕的”の一語文は、図7(b)のように相手と感覚を共有している同化型間主観であると考えられる。そして、図7(c)では、中国語の単音節属性形容詞の一語文“冷！”は、聞き手に訴えかけるように、聞き手の存在を強く

意識する対人型間主観のみを表すので、独り言には用いられない。

ここで挙げたAA型(例えば、“辣辣”)とABB型(例えば、“辣滋滋”)以外に、BA型(例えば、“冰凉”)BABA型(例えば、“冰凉冰凉”)XYZ型(例えば、“黑咕隆咚”)などの擬態形容詞も同化型の私的表現である。

もちろん、個人型と同化型の表現はともに用いても全く問題ない。例えば、以下に示すように、感動詞“啊！(あっ！)”を発する瞬間は、個人型であるが、“好冷(寒すぎる)”の状態形容詞は

同化型である。ともに私的表現であるため、話し手の気持ちを独り言的に述べることができる。

(7) (暖かい部屋から屋外に出て)

- a. さむっ。(=3a)
- b. 啊！好冷啊。
oh very-cold AUX
(あっ、寒すぎる。)

また、(8)に示すように、“好吃(おいしい)”“难吃(まずい)”“好看(美しい)”“危险(危ない)”などのような二音節形容詞は対応している擬態形容詞がないため、“太”、“真”などの程度副詞と組み合わせて用いられ、聞き手の共感を求めるような場面で使用される。

(8) (料理を食べて)

- a. うまっ。
- b. 啊！太好吃了。
oh too-delicious AUX
(あっ、すごくおいしい。)

最後に、中川(1987)は、中国語の“危险！(危ない!)”は、相手の注意を喚起する場合に用いられるため、危ない目に合った自分に向けて発するものではないと指摘している。したがって、“危险！(危ない!)”は対峙型であると考えられる。しかしながら、“老实(おとなしい)”“大方(鷹揚だ)”“干净(清潔だ)”“伟大(偉大だ)”などの二音節形容詞は一語文として発することがないため、本研究から除外する。